

平成28年度 学校評価実施報告書

幼稚園名(京都市立みつば幼稚園)

2 2回目評価

<ul style="list-style-type: none"> 個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定 			
評価項目	(1回目評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・各種指標	
確かな学力・豊かな心・健やかな体	保育の改善・充実 一人一人が発達に応じて、主体的に遊ぶための環境構成と援助の在り方を引き続き追求する。	子どもの遊び姿の事例検討1年のまとめ ・アンケート「自分から遊びを見つけて遊ぶことを楽しんでいる」	
園独自の項目	幼小接続の視点 後期交流計画の推進 就学を控えて保育の見直し 「親子で絵本」の取組の定着	交流の事前事後話し合い事例検討 アンケート「幼・小中の連携は子どもの心の育ちに役立っている」「親子で絵本を楽しんでいる」	
	心と体・生活習慣 思わず体を動かしたくなる環境と援助の工夫の1年間の成果分析 一人一人に応じた生活習慣への丁寧な援助 引き続き家庭との連携を深める	アンケート「体力・体を動かすことが好きになった・家庭での戸外遊び・生活習慣」事例により1年間の育ちのまとめ	
	信頼関係・折り合い・自己肯定感 引き続き一人一人のよさを生かした保育の推進 教師との信頼関係をもとにしたクラス集団の育ちを検証 体を思い切り動かす遊びの中での自己発揮と折り合いについて検証	子どもの姿の事例検討・まとめ 「幼稚園は一人一人のよいところを認めている」「素直に自分の思いを出している」「様々な感情体験をしている」	
	子育て支援の推進 預かり保育の内容の充実を図る。教育相談参加者数と入園者数の把握。 ほっこり子育て広場参加者数と感想把握	預かり保育参加者数・教育相談登録者と入園者数の比較確認。 ほっこり子育て広場毎月実施感想把握	
	地域や他機関、他校種とのかかわり 学校運営協議会を核とした地域とのかかわりの検証 特別養護老人ホームとの交流推進 上京中学校区の小中学校との交流の取組の検証	事例検討・まとめ アンケート学校運営協議会・地域との連携・校種間連携の意識について検証・まとめ	
	情報発信の充実 HPの毎日更新、偏りのない内容の充実	HPアクセス数 内容に対する意見	

・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成29年3月8日
評価者・組織	幼稚園評議会委員会	
アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	分析を踏まえた改善策
子どもの遊びへの取組の姿の変容 アンケート結果は100%あてはまる回答されていた。	研究主題を具体的に保育の中で取り組み、発信した結果、子どもの育ちも見られ、全保護者より子どもが主体的に遊んでいると評価された。	子どもの育ちを実際に見える形で発信していくことが、保護者の理解にもつながり、それはまた異なる子どもの育ちになっていくよう今後も意識して取り組みたい。
交流の事前事後交流の実施率100% 交流による心の育ちについては100%回答 「絵本に親しむ」は前期同様	研究主題に沿った公開保育を他校種の参加も得て行い、交流については事前事後も丁寧に行なうことができた。絵本への親子の関心は更に個人差が広がっている。	今後も小学校へつなぐということを保育を進める中で常に意識して取り組む。絵本への関心に関しては、大きさを伝える機会を増やす。
体力向上97%体を動かすことが好き96%家庭での戸外の遊び 平日44%休日76%身の回りのことは自分で68%がA園内研究事例	体を動かすことが好きになった等の評価は前期と変わらなかったが、事例から自ら動く子どもの姿が見られた。身の回りのことを自分でするようになった評価が大きくなり、幼稚園での日々の積み重ねの成果と考える。	街中で体を動かすことが少ない子どもたちに意識的に体を動かす環境をつくっていくことを継続させる。そのための教材研究を深める。
一人一人のよいところを認めている100%素直に思いを出している96%様々な感情を体験している99% 子どもの姿の事例	前期同様幼稚園の子どもへのかわりに信頼感をもたらしていることがわかった。事例からも細かな子どもの心の動きを読み取り、集団の中で自分らしさを発揮する子どもの成長が確認できた。	更に細やかに一人一人を見て、それに応じたかかわりができるように、教員全員が共通理解をして取り組んでいく。
ほぼ全員が預かり保育に参加 預かり保育は役立っているアンケート98%教育相談登録者数100組前期より増入園者32名 ほっこり子育てでの話せてよかったですとの感想	預かり保育と保育のつながりが意識してきた。教育相談については入園対象登録者の63%が入園。ほっこり子育て広場の内容を担任に伝え、保育に生かすことができた。	預かり保育の内容の充実を図る。子育て支援センターとして教育相談の在り方について見直す。ほっこり子育て広場での親同士の異年齢の仲間意識の高まりを今後も大切にしていく。
子どもの姿の変容 みつばの森のかかわり活動は幼稚園活動を豊かにしている100%地域との連携99%地域への親しみ99%保護者の地域への親しみ99%特養さんとのかかわりでの心の育ち97%	みつばの森の理事らとのかかわりによる子ども学びについて検証した。地域や特養さんとのかかわりの中での育ちを保護者も評価していることが分かった。上京中学校区の学校としてつながっていることが発信できたと思う。	「開かれた教育課程」ということを意識して、今後の保育の1つ1つを見直す。
アクセス数 前年度より1823減(3月8日現在)	毎日アップする目標が達成できなかつた。	各クラスがHPを週に1回がげるなどの意識向上を図る。

学校関係者評価	
評価日	平成29年3月14日
評価者 (いづれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
3月の「わくわくどきどき会」の姿から子どもが主体的に遊んできた1年間が伺えた。	協力できるところはぜひしたいので言ってほしい。
小学校でのポップコーンパーティや給食の姿から、交流することで小学校への親しみが増していくことが伺えた。絵本についてはこんなに立派な絵本室があるので頑張ってほしい。	今まで通り、小中などとの連携についてつないでいきたい。絵本メディア推進委員会の活動がもっとわかるようにする。
生活習慣について向上してきていることが望ましい。もっと保護者に働きかけてほしい。運動会等よく動くようになったと思って見ていた。	協力できるところはぜひしたいので言ってほしい。
保護者との信頼関係が何よりもこのまま維持してほしい。	協力できるところはぜひしたいので言ってほしい。
預かり保育の参加者が多い状態を見た。これだけのニーズがあるのかと感じた。	教育相談など地域への働きかけ等にも協力したい。預かり保育でのふれあいつながり企画推進委員会の取組も充実させたい。
みつばの森が大変高く認識されてもういい。子どもとの距離が本当に近くなり大変楽しく活動ができた。	研究報告で聞いた深草幼稚園の学校運営協議会の取組などを参考に子どもや保護者とのかかわりを深めていきたい。
HPのアクセス数で一喜一憂する必要はないが、今大きくアピールできるものだと思うので頑張ってほしい。	協力できるところはぜひしたいので言ってほしい。

3 総括・次年度の課題

今年度は、文部科学省指定「幼児期の教育内容等深化・充実調査研究」協力園として、学校運営協議会「みつばの森」や地域とのかかわりについて見直し、その大切さについて子どもの姿を通して学ぶことができた。新制度になり幼稚園の体制を変えていかなくてはいけない状況の中、保護者の方々の意見も多様化しているが、みつば幼稚園を選んでよかったと思ってもらえるように、みつば幼稚園の強みである「みつばの森」、地域とのかかわりを充実させていく。教師一人一人の真摯な保育への取組が評価されているが、組織としてそれが機能し、また、その頑張りが子どもの姿を通して、保護者や地域の方々に伝わるような発信について考えていきたい。